

◆活動団体

団体名：備中とと道トレイル推進協議会

連絡先：TEL 080-3390-6935 メール：yakageshiro@gmail.com

URL：https://www.totomichi.com/

◆活動内容

「備中とと道」とは、明治から昭和初期にかけ、瀬戸内海沿岸の笠岡市金浦から新鮮な魚を吉備高原山中の吹屋まで、屈強な魚仲仕（うおなかせ）が夜掛けのリレー方式で運んだ南北約60kmにわたる歩く古道です。近代化によりこの道は60年前には使命を終え、森の中に放置されました。私たち「備中とと道トレイル推進協議会」は前身団体や地元の個人らによる膨大な作業の末、2017年に森の中に消えていたこの道を探索、一本の道＝「備中とと道」として同定しました。

以後、私たちはこの再開発した道を「歩く遺産」として後世に残すため多様な活動を展開しています。主な事業は、毎年秋の定期的な草刈り、道と道標の整備、沿道の歴史、文化、自然に触れるトレイルウォーク大会の開催（冬から春にかけて年4回）、地元の学校、あるいは自治会でのとと道紹介講座、ガイドブックの発行等、沿道地域の歴史文化や暮らしの記憶を発掘し、次世代への継承に務めています。同時に、車社会となり歩く機会が少なくなった現在、ホモサピエンスの最大の特徴である直立2足歩行の実践の場としてのアピールも積極的に進めています。

昨年度にはこの「とと道」がユネスコの未来遺産、国交省の夢街道ルネサンスに認定され、これを機会にこの道を歩く意義を「備中とと道トレイル宣言」としてとりまとめ、夢街道ルネサンス銘板と共にスタート地点の笠岡・金浦の住吉神社境内に設置しました。

備中とと道 トレイル宣言



2024.12.4設置「本ユネスコ協会連盟未来遺産」

600万年前、ヒトとチンパンジーの共通祖先が分岐して以来、ヒトは動物の中で唯一、直立2足歩行を続けて今に至っています。私たちは備中の山中で、岡山県笠岡の金浦から北方60kmの吹屋へと瀬戸内海の鮮魚をヒトが背負い、夜掛けの12時間で届けた「歩く道」を再発見し、整備しました。

私たちは多くの方がこの「備中とと道トレイル」を次の3点を目指して、安全に、気ままに歩けるよう、維持、整備に務めることを宣言します。

■多くの方が「とと道」で直立2足歩行をフルに実践し、確かな健康を維持する

■多くの方が「とと道」沿道の豊かな歴史、文化、自然に親しく接し、備中の地を愛する

■多くの方が「とと道」を踏み固め、100年後の子もたちに「歩く道」を伝える



2025.1.18設置「夢街道ルネサンス」

歩こう 愛そう ゆつまでも「備中とと道トレイル60km」

とと道笠岡-吹屋
紹介ビデオ

〒714-1215 岡山県小田郡矢掛町中1208-1 備中とと道トレイル推進協議会 事務局 080-3390-6935

とと道再開策
紹介ビデオ

4月28日の山陽新聞には19日の三山＝成羽ウォーク大会に参加された山陽新聞の論説委員の方が下記の様な報道をされました。

山陽新聞 digital

2025/04/28 朝刊

羽織っていた上着を脱ぎ、半袖で歩いても汗がにじんでくる。山の斜面や林の中。すれ違ふものや、つとめの細い道もある。新緑の中の赤紫色のツツジに癒やされた▼今月中旬、「とと道」を歩く会に参加した。笠岡市金浦の港と、銅の生産で栄えた高梁市成羽町吹屋地区を結んだ全行程約60kmの「魚荷道」である。明治から大正期にかけて「魚仲仕」と呼ばれた男衆が40kgほどの荷をてんびん棒で担ぎ、リレー方式で運んだ▼先日歩いたのは井原市美星町内。ルートのごく一部だが、瀬戸内の魚の鮮度を保つため夜通し歩いた往時の苦勞を想像することができた。歩く会を企画したのは地域の歴史愛好家らでつくる「備中とと道トレイル推進協議会」だ▼歴史に埋もれていたルートの特定は協議会による粘り強い努力の結果だった。高齢者の聞き取りから始め、古い道しるべや牛馬供養碑などをチェックした。航空写真による植生の変化も手掛かりにしたという▼地道な活動は「地域の歴史文化や暮らしの記憶を発掘し、次世代へ継承している」として昨年、日本ユネスコ協会連盟のプロジェクト未来遺産に選ばれた▼協議会はウォーク大会のほか、個人で歩いてもらえようガイドブックづくりなどにも取り組んでいる。季節は「山笑う」から「山滴る」へ。緑の中をゆつくりと歩くには絶好の季節だ。

2025・4・28

■当協議会の業務：大きく次の4分野で、月例の役員会で推進状況を確認しています。

- ① 行政との連携、認定関係総務業務
- ② とと道広報関係業務
- ③ ウォーク大会開催、ウォークガイド派遣等業務
- ④ とと道整備、探索業務

■2024.1～2025.4の活動：

とと道の再開発は2016年に開始、2020年に現在の協議会が発足し、今年で6年目になります。この間暗中模索を繰り返して参りましたが、昨2024年には国交省夢街道ルネサンス、ユネスコ未来遺産にそれぞれ認定され、「とと道」の存在が公的に認知されるターニングポイントとなりました。

これに伴い、通常業務に加え、認定式の開催、新道標の設置開始、協議会会員の募集、学校、自治会、諸団体等、とと道事業に関心を持たれる団体への積極的な「とと道」紹介に務めました。

事業項目は添付の一覧表に4分野ならびに月日別に明示されていますが、以下主要点をまとめます。

① 2024.4-2025.3 事業収支：

- ・収入 166 万円：助成金・寄付金 57 万円、ウォーク参加費 45 万円、ガイドブック等売上げ41 万円、会費 21 万円、その他
- ・支出 157 万円：道標製作・設置・草刈り 42 万、トレイルウォーク 38 万、ガイドブック等製作 26 万、ユネスコ、夢ルネ関連 19 万、事務費 13 万、その他
- ・収支 +9 万円

② 諸認定のその後：

- ・ユネスコ未来遺産：7 月 6 日に成羽のたいこまるプラザにて登録証伝達式開催。認定審査委員の北大・西山徳明教授、沿道 4 市町の首長以下、203 名が参加。整備局の道路部長にも参加いただきました。終了後、第 1 回とと道サミットを開催、西山、神崎両氏のとと道関連の講演をいただきました。神崎氏はとと道の背景として、古来より中国山地で盛んだったたたら製鉄事業とそれに伴う道の整備を上げました。西山氏は今後の文化財保存活用には地域総がかりの対応が不可欠であり、「とと道」はそのモデル事業と言えると評価、「とと道」の重要文化的景観としての選定を目指してはいかがかと提案されました。道路部長と倉敷ユネスコ協会会長からは自ら歩かれたとと道の報告があり、最後に司会の高梁市教育委員会田村氏が「行政に携わる者と民間の方々が手を携え、郷土の誇りとしてこの道を子どもたちに伝え、100 年先に繋ぐことが我々に課せられた責務であると認識した」と総括されました。

その後今年1月から、ユネスコ HP の未来遺産運動ニュース（月例）にとと道情報の掲載を開始、ユネスコメンバーのウォーク大会参加が目立つようになりました。

・夢街道ルネサンス：10月21日に広島YMCAにて夢ルネ銘板の贈呈式が行われ、それに続く、ちゅうごく街道交流会議で今後の夢ルネ活性化ビジョン「夢ルネの更なる挑戦（30年は歴史になる！）」が発表されました。その後、1月15日にはズームによるビジョンの説明会があり、更に5月26日にはテーマ型勉強会が予定されています。なお、12月にユネスコの登録パネルをとと道のゴール、吹屋の山神社境内に、1月に夢街道ルネサンスの銘板をスタート地点である笠岡・金浦にそれぞれ設置しました。

③ ウォーク大会：2018年1月に第1回とと道ウォーク大会を実施して以来これまでに10回のガイド支援を含め合計30回の大会を実施、800名を超える方の参加を得ています。一昨年度からは寒い厳冬期を避け、12、3、4、5月の4回実施するようになりました。ガイド支援は笠岡・北川中学校、宇治高校、成羽小学校、矢掛・川面小学校、沿道自治会、倉敷ユネスコ連盟等によるウォークへの対応として実現しつつあります。このほかにも「とと道」についての講演依頼が来るようになり、認定の効果が現れているように思われます。協議会としてはこうした要請にできる限り応じ、より多くの方が自発的に歩かれる様な環境整備を目指しています。

④ 広報活動：前駆でふれたようにガイド支援のケースが増加しつつありますが、とと道を歩く気になるまでにはSNSやITを利用した広報活動が効果的で2023年以来その内容向上に努め、現在次が可能となっています。

- ・ SNS, メールによる大会参加予約受け付けと参加者との情報交換
- ・ ドローンによるウォーク模様撮影とその内容の参加者へのyoutube 経由提供
- ・ ウォーク中のガイド案内情報の携帯スピーカーによる参加者への伝達
- ・ 帰りのバスの中で、参加者の感想、コメント等の小型マイクによる収録
- ・ ユネスコのHP 経由でのウォーク大会告知。
- ・ 地域イベント情報発信組織（倉敷とことこ 等）を通じた若年層へのとと道紹介

⑤ 経費支援：これまで様々な助成を受けて事業展開をしてきました。しかし、助成期限はほぼ3年で、それまでに自立的な財政基盤の確立が求められます。これまでにガイドブック製作、道標設置等の大型事業はこうした助成により対応してきましたが、事業開始10年を超えた今後はそうした助成を受けることは困難となります。このため、とと道維持に不可欠であり経費の大宗を占める毎年の草刈り経費につき各地区で対応策を模索しはじめました。

その中で矢掛町では「まちピカ」なる町道沿線の草刈り助成システムに個人でも申請できる「まちピカソロ」なる制度が追加され、宇内から角坂を登るとと道の草刈りへの助成が受けられることになりました。とと道の将来へ向けての維持には大きな一歩です。

⑥ とと道ルートの探索：2017年にとと道は1本のルートとして特定されたものの、藪や

林の密生が激しく、入り込めないままに迂回路を通っているケースが何ヶ所かあります。このたび認定を受けたことを機会に南部地区で集中的に調査を進め、2～3 月にかけて 5 ヲ所で本来ルートを再開発できました。

了